

# えほんのおへや通信



2017年3月1日(水)発行 サンガこども園 ☎046-255-0148

梅の花がそろそろ咲き始めています。春はもうそこまで来ているようです。

**サンガこども園で定期購読しています福音館書店の月刊幼児絵本「こどものとも」3月号の紹介。**

<p><b>こどものとも 0.1.2</b> 10ヶ月～2歳向き</p> <p>「とっとこ うれしいな」 荒川薫文 / 山内彩子絵</p> <p>くつをはいて、とっとこ とっとこさんぽに行くよ。芝生はふかふか、砂利はじゃくじゃく、水たまりはぱしゃぱしゃと元気に歩きます。でも、砂場でおとっとこ……</p> 	<p><b>こどものとも 年少版</b> 2～4歳向き</p> <p>「ほわほわひつじ」 池谷陽子文・絵</p> <p>まあちゃんは、羊を2匹飼っています。名前は、チャチャとリ-さんです。まあちゃんはお母さんと一緒に干し草をあげます。冬でも、羊はほわほわの毛があるから寒くありません。羊と女の子の交流を描いたお話です。</p> 
<p><b>こどものとも 年中向き</b> 4～5歳向き</p> <p>「とのさまがえるに はるが きた」 小風さち作 / 山ロマオ絵</p> <p>地面の下で冬眠している生きものたちって、どんなタイミングで、地上に出てくるのでしょうか。ある日、早合点して、真冬に地上に出てしまったとのさまがえるは、あわてて地面の中にもどり…。</p> 	<p><b>こどものとも</b> 5～6歳向き</p> <p>「さばくのジン」 新藤悦子文 / 荒木郁代絵</p> <p>少年シャ-は、母からキャラバンを守る弦楽器ケマンチェを習います。あるとき、母と別れて旅を続けることとなりますが、砂嵐でキャラバンとはぐれてしまったところに、おそろしい砂漠の魔物ジンが現れます。</p> 
<p><b>ちいさなかがくのとも</b> 3～4～5歳向き</p> <p>「つかめる かな？」 大橋政人文 / 片山健絵</p> <p>ひらひらと舞い散る桜の花びら、ふわふわ漂うシャボン玉、水たまりにうつっている雲、葉っぱの間からもれている光……。目に映るきれいなもの、ふしぎなものに男の子が次々と手を伸ばしていきます。</p> 	<p><b>他にこんな絵本も購入しました。</b></p> <p>「こぐまちゃんとどうぶつえん」 作：わかやま けん</p>  <p>0歳から <b>こぐま社</b></p> <p>こぐまちゃんは、しろくまちゃんといっしょに動物園に行きました。首の長いキリン、赤ちゃんを抱いたおサルさんに、食事中のペンギンとラクダなど、動物たちの特長をこぐまちゃんの驚きのことばとともに描きます。</p>
<p><b>【雑感】</b></p> <p>「雛祭り」はいつ頃から始まったのか歴史的には良くわかっていません。その説は色々あります。平安時代に京都で既に平安貴族の子女の「遊びごと」として行われていたとする記録があります。一方、同じく平安時代には川へ紙で作った人形を流す「流し雛」がありました。</p> <p>江戸時代になり女子の「人形遊び」と「節句の儀式」が結びつき、全国に広まり、飾られるようになりました。</p> 	

※年齢は目安です。